

地域

団体名

手ノ子区協議会

活動地

飯豊町大字手ノ子字八幡及び大字高峰字松兀

団体紹介

【経過】手ノ子区協議会は、地域課題の協議組織として発足。その後、「里づくり活動」を取り組む。【里づくり活動】①手ノ子地区計画推進②越後米沢街道宇津峠再現③スキー場周辺環境整備④ホタルの里づくり⑤桜の森づくり⑥地域家庭料理の発掘などを実施。【活動資金】会費 51 万円(1 世帯 3,300 円)+助成金(町・県・民間)で総額 5,172 万円(R3 現在)。【表彰・顕彰】H25 知事賞(ホタルの里づくり)、H26 環境大臣賞(ホタルの里づくり)、H27 総務大臣賞(里づくり活動)、H28 山形の宝登録(宇津峠再現)。H29 知事賞(桜の森づくり)を受賞。

活動内容

八幡山桜の森づくり 13

ha の荒廃採草地を、サクラを主にした花の森に整備する取り組み。サクラの森のほか・早春の花木の森、初夏・初秋の花木の森、紅葉の森、新・深緑(ブナ)の森、などを整備して、雪解けから降雪まで楽しめる森、地域住民に身近な里山に整備する。今年度、着工から11年目を迎えた。



【写真上】今年の植栽作業。コブシ25本・ハンノキを25本、ヤエザクラ54本、シダレザクラ30本、合計134本を植栽した。(10/30)写真は、シダレザクラの植栽。

R3の事業 ヤエザクラ・シダレザクラの森(84本植栽)とコブシ・ハンノキの森(50本植栽)を整備した。そのほか草刈・土壌改良、ニセカシア除去を行った。

イベント事業 10/13 手ノ子小児童と竹ポットへのブナ苗植栽、28人参加。

10/30「森づくり」と「ふるさとを考える」集い(若苗の植栽と講演会)を行った。森づくりに35人、講演会に32名参加した。



【写真上】子供たちに「森」を身近に感じ、大切さを知ってもらうために、今年も山形県森のホームステイ事業を実施(10/13)。これまでの任意参加から今年度は全校生参加になる。

動を行っての感想

「荒れ果てた採草地を有効活用しよう。」から始めた「桜(はな)の森づくり」だが、「存続が危ぶまれる農山村の再生」をテーマに行ってきた「森づくり」と「里山を考える」集いを通して、いい森とは、里山再生とは、そこでの住民の取り組み方は、林産物の流通の課題など、数多く、具体的に学ぶことができた。

今年、「里山を考える」集いを「ふるさとを考える」集いに改めて、ふるさと再生の先例を学んだ。

